

# 2016年12月期 第3四半期決算 参考資料

I サマリー情報	P.1
① 経営成績	P.1
② 財政状態	P.1
II 2016年12月期 第3四半期実績	P.2
① 四半期損益計算書	P.2
② 製商品別売上高	P.4
③ 四半期貸借対照表	P.5
④ 設備投資の状況	P.6
⑤ 非資金項目	P.6
⑥ 研究開発の状況	P.6
III 2016年12月期 業績予想	P.7
① 損益計算書	P.7
② 製商品別売上高	P.9
③ 設備投資の状況	P.10
④ 非資金項目	P.10
⑤ 配当	P.10
【将来に関する記述等についてのご注意】	P.10

※ 本資料は累計期間に係る情報を掲載しており、百万円未満を切捨てて表示しております。

2016年10月28日



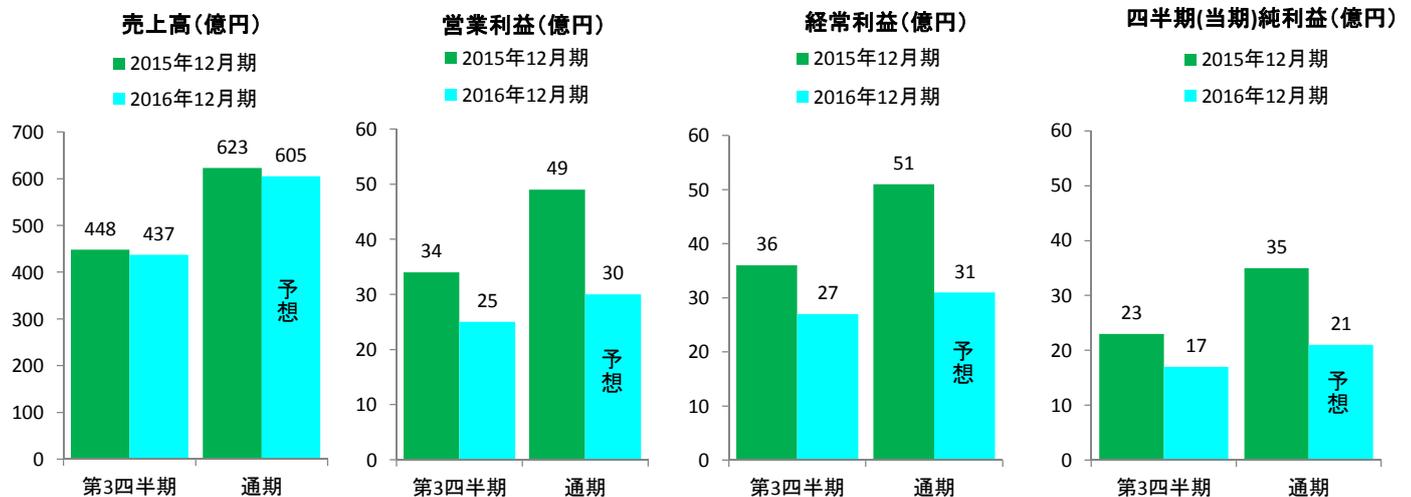
鳥居薬品株式会社

# I サマリー情報

## ① 経営成績

※2016年12月期 業績予想については、2016年7月28日「平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」で発表しております予想数値を修正しております。

(単位:百万円)	2015年12月期 第3四半期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A	2015年12月期 実績	2016年12月期 修正予想 C	対予想 進捗率(%) B/C
売上高	44,841	43,768	△1,072	△2.4	62,378	60,500	72.3
営業利益	3,494	2,574	△919	△26.3	4,919	3,000	85.8
経常利益	3,666	2,713	△952	△26.0	5,135	3,100	87.5
四半期(当期)純利益	2,331	1,755	△575	△24.7	3,527	2,100	83.6
(参考)							
研究開発費	3,667	3,577	△90	△2.5	5,237	5,000	71.5
1株当たり四半期(当期) 純利益(EPS)	(円) 82.37	62.04	△20.33		124.65	74.21	
自己資本四半期(当期) 純利益率(ROE)	(%) 2.9	2.1	△0.8		4.3	-	
総資産経常利益率	(%) 3.8	2.8	△1.0		5.4	-	
売上高営業利益率	(%) 7.8	5.9	△1.9		7.9	-	
総資産四半期(当期) 純利益率(ROA)	(%) 2.4	1.8	△0.6		3.7	-	



## ② 財政状態

(単位:百万円)	2015年12月期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
総資産	98,868	96,711	△2,157	△2.2
純資産	82,826	83,071	245	0.3
自己資本比率	(%) 83.8	85.9	2.1	
1株当たり純資産(BPS)	(円) 2,926.81	2,935.40	8.59	

## Ⅱ 2016年12月期 第3四半期実績

### ① 四半期損益計算書

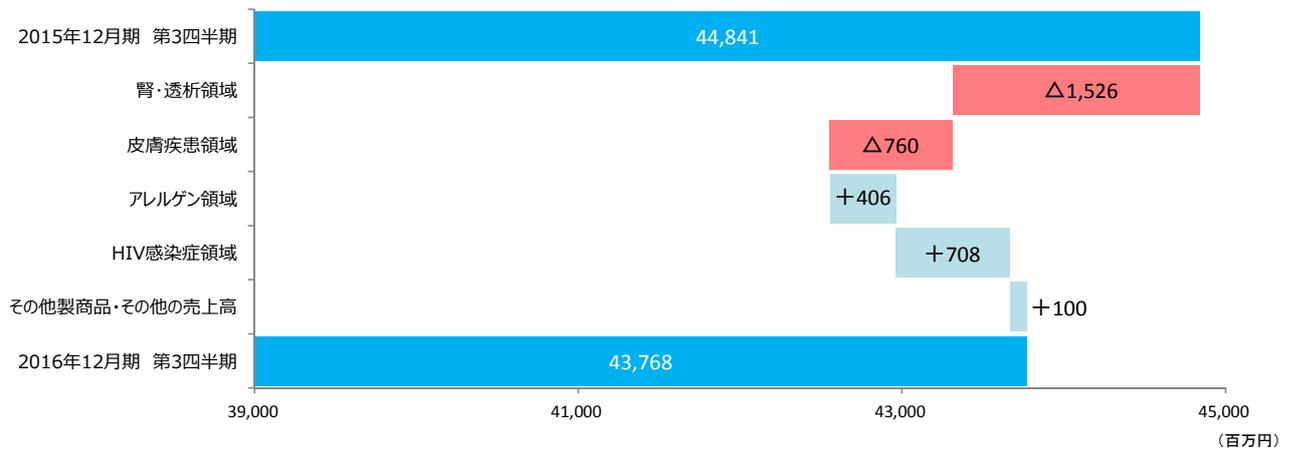
(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%)
	第3四半期 A	第3四半期 B		
売上高	44,841	43,768	△1,072	△2.4
製商品売上高	44,506	43,329	△1,176	△2.6
腎・透析領域	19,752	18,226	△1,526	△7.7
皮膚疾患領域	8,082	7,321	△760	△9.4
アレルギー領域	575	982	406	70.6
HIV感染症領域	11,727	12,435	708	6.0
その他	4,368	4,364	△3	△0.1
その他の売上高	335	439	104	31.0
売上原価	22,104	21,857	△247	△1.1
製商品売上原価	22,063	21,807	△256	△1.2
その他の原価	40	49	9	23.7
売上総利益	22,737	21,911	△825	△3.6
販売費及び一般管理費	19,242	19,337	94	0.5
販管費(研究開発費除く)	15,574	15,759	184	1.2
研究開発費	3,667	3,577	△90	△2.5
営業利益	3,494	2,574	△919	△26.3
営業外収益	174	140	△34	—
営業外費用	2	1	△1	—
経常利益	3,666	2,713	△952	△26.0
特別損失	93	17	△76	—
税引前四半期純利益	3,573	2,696	△876	△24.5
法人税等	1,242	941	△301	—
四半期純利益	2,331	1,755	△575	△24.7

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2015年12月期	2016年12月期	増減
	第3四半期 A	第3四半期 B	
売上原価	49.3	49.9	0.6
販売費及び一般管理費	42.9	44.2	1.3
研究開発費	8.2	8.2	0.0
営業利益	7.8	5.9	△1.9
経常利益	8.2	6.2	△2.0
四半期純利益	5.2	4.0	△1.2

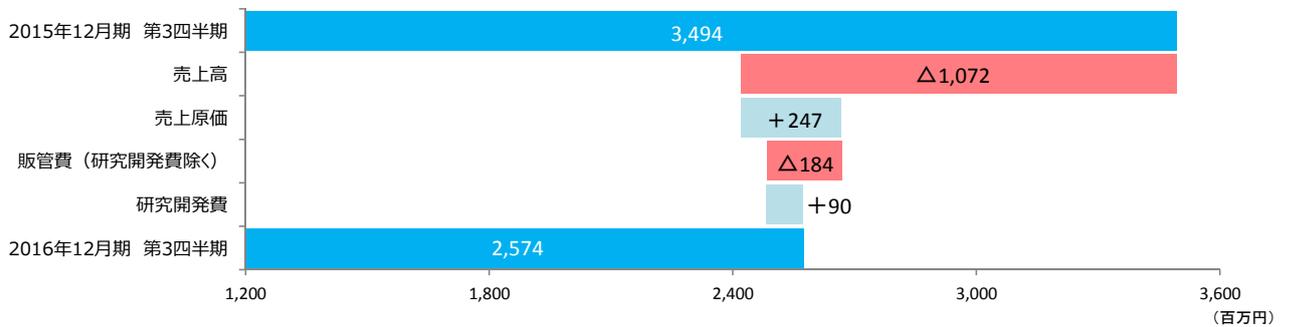
【対前年同期増減要因】

売上高（43,768百万円 対前年同期 △1,072百万円）



主な増減要因				
腎・透析領域	レミッチカプセル	△1,288百万円	注射用フサン	△428百万円
	リオナ錠	+514百万円		
皮膚疾患領域	アンテベート	△403百万円		
アレルギー領域	シダトレン スギ花粉舌下液	+336百万円		
HIV感染症領域	ゲンボイヤ配合錠	+669百万円		
※詳細はP.4「② 製商品別売上高」を参照				

営業利益（2,574百万円 対前年同期 △919百万円）



主な増減要因	
売上原価	：売上高の減少、販売品目の構成変化
販管費（研究開発費除く）	：パソコン更新による増加
研究開発費	：臨床試験費用（TO-206）の減少、Menlo Therapeutics社との契約に伴う一時金支払による増加

経常利益（2,713百万円 対前年同期 △952百万円）

特記事項：特になし

四半期純利益（1,755百万円 対前年同期 △575百万円）

特記事項：特になし

## ② 製商品別売上高

(単位: 百万円)	2015年12月期 第3四半期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
製商品売上高	44,506	43,329	△1,176	△2.6
レミッチカプセル	11,209	9,921	△1,288	△11.5
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]				
ツルバダ配合錠	9,334	9,351	17	0.2
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
アンテベート ※1	5,029	4,625	△403	△8.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
リオナ錠	3,506	4,021	514	14.7
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]				
スタビルド配合錠	2,202	2,239	36	1.7
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
ビオスリー	1,641	1,765	123	7.5
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]				
注射用フサン ※1	2,190	1,762	△428	△19.5
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]				
ケイキサレート ※1	1,659	1,605	△54	△3.3
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]				
ロコイド ※1	1,054	1,011	△42	△4.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
ゼフナート	1,054	993	△60	△5.7
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]				
ユリノーム錠 ※1	1,185	915	△270	△22.8
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]				
マグセント	830	822	△7	△0.9
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]				
ゲンボイヤ配合錠 ※2	—	669	669	—
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
シダトレン スギ花粉舌下液 ※1	283	620	336	118.5
スギ花粉症の減感作療法 (アレルゲン免疫療法) 薬 [アレルゲン領域]				
その他製商品	3,322	3,003	△318	△9.6

※1 自社品

※2 「ゲンボイヤ配合錠」は、2016年7月に販売を開始しました。

### (参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位: 百万円)	2015年12月期 第3四半期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
自社品売上高	12,728	11,897	△830	△6.5
自社品比率 (%)	28.6	27.5	△1.1	—

③ 四半期貸借対照表

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%)	構成比 (%)
	A	第3四半期 B			
流動資産	77,155	76,976	△178	0.2	79.6
現金及び預金	14,361	21,459	7,097		
キャッシュ・マネジメント・システム預託金	4,348	5,126	777		
受取手形及び売掛金	27,904	24,097	△3,807		
有価証券	18,708	12,305	△6,402		
たな卸資産	9,836	11,720	1,883		
その他	1,994	2,266	272		
固定資産	21,713	19,734	△1,978	△9.1	20.4
有形固定資産	6,182	5,818	△364		
無形固定資産	955	903	△51		
投資その他の資産	14,575	13,012	△1,563		
投資有価証券	6,800	5,249	△1,551		
長期前払費用	6,530	6,431	△99		
その他	1,244	1,332	87		
資産合計	98,868	96,711	△2,157	△2.2	100.0
流動負債	14,472	12,033	△2,439	△16.9	12.4
買掛金	6,853	6,873	20		
未払金	3,287	1,829	△1,457		
未払法人税等	1,915	340	△1,574		
賞与引当金	660	1,337	677		
その他	1,755	1,651	△104		
固定負債	1,569	1,606	36	2.3	1.7
負債合計	16,042	13,639	△2,402	△15.0	14.1
株主資本	82,127	82,524	396	0.5	85.3
評価・換算差額等	698	544	△154	△22.1	0.6
新株予約権	-	2	2	-	0.0
純資産合計	82,826	83,071	245	0.3	85.9
負債純資産合計	98,868	96,711	△2,157	△2.2	100.0

主な増減要因

(流動資産)

- 受取手形及び売掛金 : 売上高の減少による減少
- 有価証券 : 金銭信託の償還による減少
- たな卸資産 : 商品の増加

(固定資産)

- 投資有価証券 : 有価証券への振替による減少

#### ④ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	第3四半期	第3四半期		
	A	B		
設備投資額	1,198	601	△596	△49.8
有形固定資産	930	420	△510	△54.8
無形固定資産	267	181	△85	△32.1

#### 当期の設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力向上を目的とする製造設備への投資  
 無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

#### ⑤ 非資金項目

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	第3四半期	第3四半期		
	A	B		
減価償却費	1,062	1,000	△62	△5.8
長期前払費用償却費	627	759	132	21.2

#### ⑥ 研究開発の状況

開発番号 「製品名」	予定適応症等	剤形等	開発段階（国内）					備考
			Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認	
<b>腎・透析領域</b>								
JTT-751 「リオナ錠」	鉄欠乏性貧血	経口剤		Phase II				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケリックス社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結</li> <li>・日本たばこ産業(株)との共同開発</li> <li>・日本たばこ産業(株)が2014年1月17日に製造販売承認取得</li> <li>・高リン血症治療剤として販売中</li> </ul>
<b>アレルギー領域</b>								
TO-203 「ミティキュア タニ舌下錠」	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠		Phase II / III 終了※				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結</li> <li>・自社開発</li> <li>※今後の開発方針について検討中</li> </ul>
	室内塵ダニアレルギー疾患 (小児アレルギー性鼻炎) (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結</li> <li>・自社開発</li> </ul>
TO-206	スギ花粉症 (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠				申請		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自社開発</li> <li>・2015年12月25日に製造販売承認申請</li> </ul>

上記のほか、以下の契約を締結しております。

- ・2016年8月 Menlo Therapeutics社が開発を進めているニューロキニン1 (NK-1) 受容体アンタゴニスト (国際一般名: serlopitant) の日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約 (日本たばこ産業(株)との共同開発)
- ・2016年10月 日本たばこ産業(株)が日本での臨床開発を実施しているJAK阻害剤「JTE-052」皮膚外用製剤の日本における共同開発及び販売に関する契約

### Ⅲ 2016年12月期 業績予想

※2016年12月期 業績予想については、2016年7月28日「平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）」で発表しております予想数値を修正しております。

#### ① 損益計算書

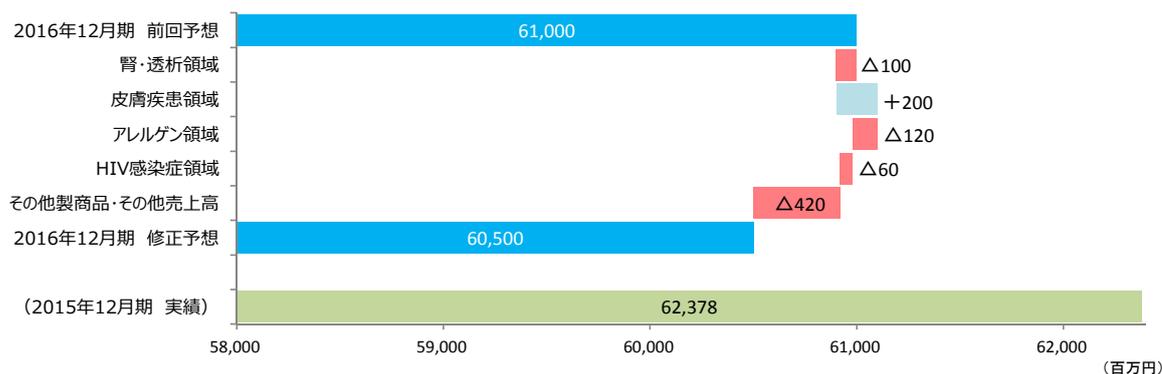
(単位:百万円)	2016年12月期	2016年12月期	修正額	2015年12月期	増減額	増減率 (%) (B-C)/C
	前回予想 A	修正予想 B		実績 C		
売上高	61,000	60,500	△500	62,378	△1,878	△3.0
製商品売上高	59,900	59,900	—	61,861	△1,961	△3.2
腎・透析領域	25,630	25,530	△100	27,627	△2,097	△7.6
皮膚疾患領域	9,520	9,720	200	10,970	△1,250	△11.4
アレルギー領域	1,560	1,440	△120	905	534	59.0
HIV感染症領域	17,320	17,260	△60	16,330	929	5.7
その他	5,870	5,950	80	6,028	△78	△1.3
その他の売上高	1,100	600	△500	517	82	16.0
売上原価	30,500	30,400	△100	30,814	△414	△1.3
売上総利益	30,500	30,100	△400	31,564	△1,464	△4.6
販売費及び一般管理費	27,500	27,100	△400	26,645	454	1.7
販管費（研究開発費除く）	22,300	22,100	△200	21,408	691	3.2
研究開発費	5,200	5,000	△200	5,237	△237	△4.5
営業利益	3,000	3,000	—	4,919	△1,919	△39.0
経常利益	3,100	3,100	—	5,135	△2,035	△39.6
当期純利益	2,000	2,100	100	3,527	△1,427	△40.5

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2016年12月期	2016年12月期	増減	2015年12月期	増減
	前回予想 A	修正予想 B		実績 C	
売上原価	50.0	50.2	0.2	49.4	0.8
販売費及び一般管理費	45.1	44.8	△0.3	42.7	2.1
研究開発費	8.5	8.3	△0.2	8.4	△0.1
営業利益	4.9	5.0	0.1	7.9	△2.9
経常利益	5.1	5.1	0.0	8.2	△3.1
当期純利益	3.3	3.5	0.2	5.7	△2.2

【2016年12月期 対前回予想増減要因】

売上高（60,500百万円 対前回予想△500百万円）

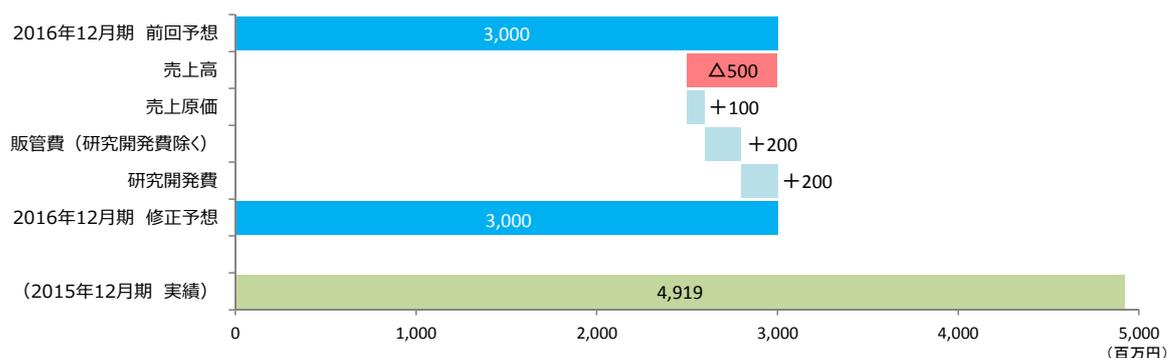


主な増減要因

腎・透析領域	: リオナ錠	△220百万円、	レミッチカプセル	+170百万円
HIV感染症領域	: スタビルド配合錠	△600百万円、	ゲンボイヤ配合錠	+620百万円
その他製商品・その他売上高	: コ・プロモーション収入	△500百万円		

※詳細はP.9「② 製商品別売上高」を参照

営業利益（3,000百万円 対前回予想変更なし）



主な増減要因

売上原価	: 販売品目の構成変化
販管費（研究開発費除く）	: 経費節減による効果
研究開発費	: 臨床試験費用（TO-203）の減少

経常利益（3,100百万円 対前回予想変更なし）

特記事項：特になし

当期純利益（2,100百万円 対前回予想+100百万円）

特記事項：特になし

## ② 製商品別売上高

(単位: 百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
製商品売上高	59,900	59,900	-	61,861	△1,961	△3.2
レミッチカプセル	13,350	13,520	170	15,636	△2,116	△13.5
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]						
ツルバダ配合錠	12,850	12,970	120	12,938	31	0.2
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
アンテベート ※1	6,190	6,250	60	6,881	△631	△9.2
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]						
リオナ錠	6,290	6,070	△220	5,034	1,035	20.6
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]						
スタビルド配合錠	3,170	2,570	△600	3,133	△563	△18.0
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
注射用フサン ※1	2,530	2,510	△20	3,062	△552	△18.0
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]						
ピオスリー	2,470	2,420	△50	2,272	147	6.5
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]						
ケイキサレート ※1	2,200	2,180	△20	2,288	△108	△4.7
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]						
ゲンボイヤ配合錠 ※2	900	1,520	620	-	1,520	-
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
ロコイド ※1	1,370	1,360	△10	1,417	△57	△4.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]						
ユリノーム錠 ※1	1,260	1,250	△10	1,604	△354	△22.1
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]						
ゼフナート	1,110	1,230	120	1,407	△177	△12.6
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]						
マグセント	1,120	1,130	10	1,143	△13	△1.2
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]						
シダトレン スギ花粉舌下液 ※1	990	910	△80	511	398	77.8
スギ花粉症の減感作療法(アレルギー免疫療法)薬 [アレルギー領域]						
その他製商品	4,100	4,010	△90	4,528	△518	△11.4

※1 自社品

※2 「ゲンボイヤ配合錠」は、2016年7月に販売を開始しました。

### (参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位: 百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額(率) B-A	2015年12月期 実績 C	増減 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
自社品売上高	16,470	16,350	△120	17,567	△1,217	△6.9
自社品比率 (%)	27.5	27.3	△0.2	28.4	△1.1	-

### ③ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
設備投資額	1,101	1,112	11	2,207	△1,095	△49.6
有形固定資産	746	760	14	1,802	△1,042	△57.8
無形固定資産	355	352	△3	405	△53	△13.2

#### 設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力向上を目的とする製造設備への投資  
無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

### ④ 非資金項目

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
減価償却費	1,292	1,358	66	1,457	△99	△6.9
長期前払費用償却費	1,024	1,025	1	824	200	24.3

### ⑤ 配当

	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額(率) B-A	2015年12月期 実績 C	増減 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
1株当たり配当金 (円)	48	48	0	48	0	0.0
配当性向 (%)	67.9	64.7	△3.2	38.5	26.2	-

#### 【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。（かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。）

- ◇ 医薬品医療機器法その他の法令又は規制の変化
- ◇ 副作用の発現
- ◇ 研究開発の遅延又は中止
- ◇ 製商品の供給停止、回収
- ◇ 薬価の決定、改定
- ◇ 訴訟の提起